学校法人永原学園
さんこう児童クラブ通信
令和８年11月発行
― 第8号 ―
【三光幼稚園】
TEL:0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL:090-7430-1312

「好き」を伸ばしてね💛

今年の運動会は、台風の影響で開催が危ぶまれたり延期になったりと当日までハラハラしましたが、みんなの願いが届いたのか、快晴の中で行われました。

こども達の要望に応えて見に行くと、自分の選んだ種目に一生懸命取り組む姿を観客の方達に見てもらえることを喜んでいるように感じました。

係の仕事、下級生のお世話を生き生きと行う上級生の子ども達！！

本児童クラブの子どもたちも近いうちに、こんな素敵なお兄さん、お姉さんになるんだと感じ、これからの成長が楽しみになりました。

今、文科省等では次期学習指導要領や幼保指針・要領等の改定に向け審議が進んでいます。勉強が楽しく取り組めるきっかけは、子どもの好きなことや得意なことを通して授業に興味や関心が深まることがあるように感じます。本クラブでは、子どもの好きな活動が十分楽しめるようにしていきたいと思います。

11月の目標「ルールを守ろう」

送迎時、児童クラブでの生活や遊び等、様々な場面で約束事があります。楽しく安全に過ごすためにも決まりごとは守ろうとする意識をもち、声を掛け合いながら皆で生活を作っていきたいと思います。

11月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数
1年生	17	0	17	0
2年生	11	0	11	0
3年生	2	0	2	0
計	30	0	30	0

【★貼り絵製作★】

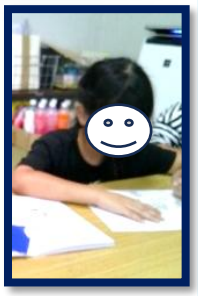
西九州大学の学園祭に飾る作品作りに取り組みました♪自分の書きたいもののアイデアに合う画用紙の大きさを選び、下書きをして折り紙をちぎり貼っていきました。

下書き・・・絵画のように丁寧に細かく描く子がいました。細かすぎると貼るのが難しいことを考え合い、大きく描くことを意識して取り組みました。





実物や塗り絵をじっくり見ながら見て描いている姿からは集中力が感じられました♪



ちぎり貼り・・・自分の書いた絵に合う折り紙の色を選び、貼っていました。貼り方ちぎり方はそれぞれの個性が表れていて、オリジナリティ溢れる作品が出来上がりました♪





一人で黙々と取り組み、作品の世界観に入り込んだり、友達と会話し、一緒に製作しながら他児の作品に触れたりして各々の楽しみ方がありました(^O^)

普段は自由に工作したり、製作もやりたい子が取り組むことが多いですが、これからも時々、同じ目的に向かって皆で取り組むこともとやっていきたいなと感じました♡

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学部の窓から

「お子さんの「食べる力」の発育にも注目しましょう」

リハビリテーション学部・学科　理学療法専攻　みやもとあきら

「どうして、うちの子は食べないのかな？」と思ったことはありませんか。毎日の食事は、子どもの成長を知る大切な時間です。園児期は、「野菜を嫌がる」「同じものばかり食べる」「食事に集中しない」「時間がかかる」など、食事について気になることが多い時期ですね。特に、1歳半～2歳ごろは、今まで食べていたものを急に嫌がったりすることがあります。しかし、これらは単なる「好き嫌い」でもなければ、お子さんのわがままでもなく、「摂食機能の発達」に関係しているかもしれません。子どもは大人のように理屈で食べ物を考えて食べることができないため、食べ物のにおいや食感が苦手だったり、食べることへの不安が強かったりして、食べられる種類や量が少なくなる場合があります。このような状態の一つに『回避・制限性食物摂取症（ARFID）』となる場合もあります。

「食べる力」の発達には、口や歯、舌の働きは大切です。食べ物を口に取り込み、舌で運び、歯と歯茎で噛みながら唾液と混ぜて飲み込みやすい形にしていきます。口腔機能の発達が十分でないと、硬いものを嫌がったり、食べるのが遅かったり、飲み込まずにずっと噛んだり、舌で食べ物を上顎に押しつけるような食べ方が見かけられます。これらには、口の中から覗き込める上顎が通常より深い『高口蓋』など、口の形の特徴が、舌の動きや食べ物の処理に影響することもあります。

そして、もう一つ大切なのが「からだの使い方」です。スプーンを持つ、食べ物をつまむ、口まで運ぶ―これらには手や上腕の働きが必要です。手を自由に動かすためには、身体の中心となる体幹が安定していることも大切です。頭を支える頸部、骨盤や体幹、足の安定性がなければ、口の動きと手の使いに悪い影響が出やすいです。例えば、椅子に座ったとき、足がぶらぶらしていませんか？　食事中に体が左右に傾く、足がぶらぶらする、重たい頭が支えきれず姿勢が崩れるなどの様子があると、食べることに余分な力を使ってしまいます。この際には、足台などを使って足を安定させることも、食べる姿勢を支える一つの工夫です。

また、食事中は、食べ物の飲み込みと呼吸を上手に切り替える必要があります。そのため、そのため、鼻づまりがあると、食べながら息をすることが苦しくなり、食事に疲れやすくなることがあります。

摂食機能を含む発育上の問題を早期発見するための5歳児健診」を2028年度までに全国すべての自治体で実施するという目標を掲げ、こども家庭庁を中心に国を挙げた取り組みが急速に進められています。「噛みにくそう」「飲み込みにくそう」「食事にとても時間がかかる」「手づかみやスプーンがなかなか上手にならない」など、気になることがあれば、早めに専門家に相談してみましょう。

